

教育委員会議事録

平成27年11月臨時会

海老名市教育委員会

教育委員会議事録
(平成27年11月臨時会)

- 1 日 付 平成27年11月2日 (月)
- 2 場 所 海老名市役所第2委員会室
- 3 出席委員 教育長 伊藤 文康 教育委員 松樹 俊弘
教育委員 平井 照江 教育委員 岡部 二九雄
教育委員 海野 恵子
- 4 出席職員 教育部長 岡田 尚子
教育部次長兼教育総務課長事務取扱 金指 太一郎 参事兼学校教育課長 飛矢崎 義基
参事兼教育指導課長 鷺野 昭久 学校教育課主幹兼保健給食係長 外村 智昭
教育指導課教育支援担当課長兼教育支援センター所長兼指導主事 山川 勇 教育指導課主幹兼児童育成係長 西海 幸弘
教育総務課主幹 仲戸川 元和 教育指導課主幹兼教育指導係長兼指導主事 小宮 洋子
教育指導課主幹兼指導主事 和田 波代
- 5 書 記 教育総務課庶務係長 佐藤 哲也 教育総務課主事 魚谷 尚子
- 6 開会時刻 午後2時00分
- 7 付議事件
日程第1 議案第21号 海老名市社会教育計画の策定について (継続審議)
日程第2 議案第22号 平成27年度全国学力・学習状況調査の公表内容について
- 8 閉会時刻 午後3時25分

○伊藤教育長 本日の出席委員は5名であります。定足数に達しておりますので、会議は成立いたしました。

これより教育委員会11月臨時会を開会いたします。

傍聴はございません。

初めに、議事録署名委員の指名を行います。本臨時会の議事録署名委員は、規定により、教育長において、松樹委員、平井委員によりしくお願いいたします。

○各委員 異議なし。

○伊藤教育長 本日の日程については、すでにお配りした議事日程のとおり、審議事項が2件となっておりますので、よろしくお願いいたします。

○伊藤教育長 それでは、審議事項に入ります。

はじめに、日程第1、議案第21号、10月定例教育委員会において継続審議となっております海老名市社会教育計画の策定について（継続審議）を議題といたします。

それでは、説明をお願いします。

○教育部長 日程第1、議案第21号、海老名市社会教育計画の策定について（継続審議）でございます。

本件は、前回、10月23日の教育委員会定例会で継続審議となりました海老名市社会教育計画を策定したため、議決を求めるものでございます。

内容につきましては西海教育指導課主幹から御説明申し上げます。

○教育指導課主幹 では、前回に引き続きまして、社会教育計画の策定についてをご説明させていただきます。

前回の定例教育委員会の中で委員の皆様方よりご意見を頂戴してございます。そのご意見を反映させた形で今回ご提示をさせていただいております。修正部分につきましてはのみご説明をさせていただきたいと思っております。

まず最初に、1枚お開きいただきまして1ページ目でございます。前回は社会教育の目的という形で枠囲いの部分が一番上の上段にございました。平井委員のご意見を受けまして、見せ方を一部変えてございます。

まず最初に、社会教育とはという形で始まりまして、海老名市教育委員会ではという書き出しをしております。さらには、本市における社会教育の在り方としては、学校を中心にやっていきたいという書き方をいたしまして、さらには、学校を地域のキーステーショ

ンとして位置づけ、学校と地域が協働し、子どもと大人が共に学ぶことができる環境づくりを目指し、社会教育の目標を設定しましたという形で、枠囲いのところを中央に移動してございます。それ以外の部分につきましては、1ページ目では修正してございません。

ただ、これまで海老名市の社会教育、お手元の資料では目標とございますが、それまでの資料でございまして、ここが社会教育の目的という書き方をしておりました。その目的の部分を目標という表記に変えさせていただいてございます。

続きまして、3ページでございます。子ども・学校支援事業の(1)事業の趣旨の2段落目、少し表現がわかりにくい部分がありました。こちらは海野委員よりご意見がございました。ここを改めさせていただきまして「地域による学校支援の活動がより効果的に行われ、学校と地域の相互の交流を今まで以上に充実させるためには、学校と地域をつなぎ、地域の人財を生かす仕組みが不可欠となる」。「そこで」以降を一部修正してございます。「各小学校に学校応援団を組織化し、学校と地域の調整役となることで、地域の力をより子どもや学校のために生かすことができると考えた」という形で文言を一部修正してございます。

さらに、修正部分といたしましては11ページでございます。11ページの図書館事業の枠の大きな括弧の一番下でございます。《学校図書館》の部分でございますが、中点の2つ目で「図書館司書（指定管理者）」という形で修正をしてございます。前回までの表現ですと「指定管理者（図書館司書）」という表記になっておりました。さらには、その末尾に「19校に派遣」という形で修正をさせていただいております。前回までは「19校に配置」という表記になっておりました。

そのほかにも幾つか委員の皆様方からご意見は頂戴していただいておりますが、今後こちらの社会教育計画策定以降も順次見直しは図っていきたいと考えております。

説明は以上でございます。

○伊藤教育長 ただいま説明がありましたけれども、前回皆さんからいただいたご意見等を踏まえて訂正したということでございます。何かありましたらお願いいたします。

○海野委員 このたび何回も修正していただいて、このように社会教育計画ができ上がったことで、今後とも学校教育だけでなく、地域ぐるみで子どもを育て、家庭や地域の教育力の向上に役立つことと思いますので、ぜひ活用していただきたいと思います。よろしく申し上げます。

○伊藤教育長 岡部委員のこれまでの経過もある程度踏まえて、目標として書いてありま

す。

○松樹委員 1点、よろしいですか。各事業は、教育委員会が主体でやる事業だったり、社会教育委員だったり、各種団体とかいろいろあると思うのですが、社会教育委員の位置づけは前回も少し伺いましたが、回数等を増やしていくなどする中で、社会教育委員が携わるという事業が多いかなという気がします。例えば各事業を見直すとか、点検だとか、社会委員会から助言だったり、提言だったり came 覚えが私にはないのですが、こうしたほうがよいのではないかとか、こんな事業はどうだろうかとか、このようにしたら市民サービス向上になるのではないかとかという意見、提言の吸い上げといたしますか、そういうことも並行して事業展開していただきたいなと思っております、要望という形にかえさせていただきます。よろしく願いいたします。

○伊藤教育長 前回、松樹委員から回数とか、前々には、ある意味、教育委員会自体が形骸化という話が出されたので、社会教育委員会会議とか、そのような形のさまざまなネットワークの会議についても年間の回数が本当に限られていて、何かを詳しくとか、熟議のような形で話を進めてというのは非常に厳しい。だから、そういう意味で、教育委員会が所管しているさまざまな会議についても形骸化するような形、要するに形式的に事を終わらせることのないような方向で今後改革とか、私はそのような方向で進めたいと思います。

○松樹委員 社会教育委員の会議の議事録がホームページ上にアップされたのを読ませていただいたのですが、それぞれの委員がさまざまな意見を言っていて、すばらしいなという意見もすごくあるのですね。それを個々にいとなかなか難しいのかもしれないのですが、社会教育委員の会議として、では、これは教育委員会に提言しましょうとか、助言しましょう等といった会議のやり方があってもよいのかなという気がします。もう少しお互いにやりとりをしながら、よりよいものをつくっていくような形に、現在進行形の事業もそうですが、なってくればよいかなと私は思っております。

○伊藤教育長 わかりました。でも、これは社会教育、要するに普通のルーチン作業とか、職務以外に2年間かけてつくったのは初めてだなと思っておりますので、今後とも進めてまいりたいと思います。

他にございませんか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○伊藤教育長 ご質問等もないようですので、議案第21号を採決いたします。

この件について、原案のとおり可決することにご異議ございませんか。

○各委員 異議なし。

○伊藤教育長 それでは、ご異議なしと認めます。よって、日程第1、議案第21号を原案のとおり可決いたします。

○伊藤教育長 続いて、日程第2、議案第22号、平成27年度全国学力・学習状況調査の公表内容についてを議題といたします。

それでは、説明をお願いします。

○教育部長 それでは、本件でございますが、平成27年度全国学力・学習状況調査の市及び学校別の公表内容について決定したいため、議決を求めるものでございます。

内容につきましては鷺野参事兼教育指導課長から説明いたします。

○教育指導課長 9月定例教育委員会で公表の目的、公表の方法について決定いたしまして、それに従ってまとめたものでございます。既にお配りしました市の結果、19校全てのものがお手元にあるかと思えます。

まず、市のほうを見ていただきたいと思えます。最初に、ダイジェスト版が載っております。それから、中に入りまして市の結果概要、その後は、小学校国語、算数、理科、中学校国語、数学、理科と続いておりまして、その後は児童・生徒質問紙調査のカテゴリーに分けました分析結果、クロス集計とそれら児童・生徒質問紙の結果を集約して、家庭で協力していただきたいということでございます。市の最後に、8つの施策についてまとめてあります。

各学校のほうにつきましては、例えば海老名小学校を1枚お開きいただきますと、目次があります。そこに書いてあるとおりですが、まず、全国学力・学習状況調査についての説明、国語、算数、理科に関する「調査結果」、「児童質問紙の結果より」と「今後の具体的な取組」、ご家庭で取り組んでいただきたいこと、最後に文科省の資料をつけております。学校のほうはできるだけ具体的に、また、保護者にわかりやすい言葉を使ってというふうにお話をしておきました。ただし、内容について今回は学校長の裁量を大いに発揮してくださいということですので、学校ごとに多少の特色は出ているかなと思えます。

以上、雑駁ですけれども、説明といたします。

○伊藤教育長 事前に資料をお渡ししてあるのですけれども、これで急にご意見をと言われても困りますよね。

1点だけ確認したいのですが、装丁上、資料の中の色とか何かが変わることはありますが、それはよろしいですか。こちらのほうでよりよいものにして、ベースの色は、昨年度は水色でしたが、今年度は変えております。毎年変えないと、我々も色で今年度の分とわかるほうがありがたいので、それはご了承ください。

○各委員 異議なし。

○伊藤教育長 表紙からですが、昨年は海老名市小学校連合運動会だけだったので、今年は海老名市中学校総合文化祭も入れて、これは今泉中学校なので、小中を入れるような形にしました。

お聞きいただいて、先ほど鷺野教育指導課長から説明がありましたけれども、概要というところであります。概要で4点あるのですが、調査の分の結果概要のもう少し大きいのがここにあるのですが、小学校はほとんど昨年と変わらず、やや下回っています。中学校は全調査で上回っています、中学校はかなり成績が伸びているのが現状でございます。ただ、基本的な生活習慣は良好ですの枠を見ますと、小学校が社会的関心とか、テレビ、ゲームとか何かの部分で全国平均から下回り、中学校はすごくいびつな形ですね。松樹委員、1枚お聞きいただくともっと見やすいので少し見ていただきたい。これはかなりいびつな形で、かなり家庭に働きかけて、学校と家庭が一緒になって取り組まないといけないのかなとは思っていますけれども、水色の形でうまく均衡がとれているのが一番よいのですが、ただ、今の子どもたちの生活の中には、全国的にも同じような傾向があるというところでございます。

次に各教科ですが、少しおめぐりいただいて、小学校国語Aですと、山がこのような形になっていますよということで、例えば全体の正答率はマイナス2.2なのですが、見にくいのですが、よく見るとひし形の四角が全国なのです。すると、海老名の子どもたちは、9問、10問と、棒グラフで全国より上回っているではないですか。あと、3問とか7問。ところが、12問とか、13問とか、14問の本当に上のほうの子たちが非常に少ないかなと思います。これは基本の問題なので、この部分がもう少し増えてこないといけないかなということでございます。下のほうにあると、話すこと・聞くこと、書くことの領域ごとですが、全てマイナスで、伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項、要するに漢字とか言葉がマイナス3.3ポイントと、ある意味でいうと結構なマイナスなのです。反対側に行くと上回ったのは、読むのはよいのですが、例えば漢字を書く設問で「浴（びる）」という漢字はマイナス6.8ポイントとはすごいですよね。

「巢」「病院」とか、もちろん習っている漢字なのだけれども、ふだん余り使わない、子どもたちにとっては難しいのかな。でも、「病院」ぐらいは書いてもよいのかなと私は思ったりもします。

あと、文章から主語を選ぶ設問。文の主語、述語が並んでいて、そこの主語はどれかという文法の問題は非常に厳しい。あと、根拠づける言葉を書き抜くことができなかった、下にこのような形で出ています。これが全国を下回った設問の例です。

それで考察ですが、今年度は平成26年度との比較ということでコメントが載っています。それで指導の改善に向けてということです。子どもたちは、漢字練習はしていると思うのですよ。多分一生懸命漢字を何回も何回も。でも、文章として、1つのトータルで活用しながら漢字練習をするような形がとれていない。あとは、ふだん子どもたちは作文を書くときに本当に漢字を使っているのかな。要するに自分でまとまった文章を書くとき、病院に行ったを平仮名で「びょういんに行った」と書く。でも、それに対して先生が指導をしているかどうか。要するに習った漢字は使おうね。が、普通の約束だと思うのです。たくさん書かせようとするのだけれども、そうではなくて、書くこととともに、そういう習ったものはきちんと使いましょうねということを徹底することが必要なのかなと思います。だから、漢字テストは、昔から言われているのですけれども、ただ漢字だけの読みを書いて使うのではなくて、文章とともに漢字テストをやるとか、そういう練習をさせるとか、工夫はあると思うのですというのがわかります。それが国語A、国語Bという形ですと載っています。

国語Bでももう一山頑張ってもらいたい。これも一番最後の9問が。でも、手前の子たちは多いのですよ。もう1つここを頑張ってもらいたい。4問、5問は多いではないですか。別に低い、下のほうが多いわけではなくて、ある程度できるけれども、もう1つ移動してくれるとありがたいかなと思うところです。Bの場合は条件をつけて書くというのが非常に厳しいのです。何字以内で書きなさいなどです。ただ書くことは子どもたち大好きで、要するに学習に係る質問といっても、文章を書くことは嫌いではないということです。でも、その中で条件をつけて書くことには少し抵抗があるなということがここではわかります。

次にいきます。算数、小学校算数Aです。これも全国と比べると大体同じ傾向です。こちら14問、15問、16問まで持ってくるとよいと思うのですよ。でも、手前はきちんとあるのです。押しなべてそうなのですから、これもできなかった180度以上の角度つ

て、180度全体で、そのプラスアルファは分度器ではこれは、はかれないではないですか。でも、直線をすっと引いて、180度のところがあって、残りプラス何度等解く方法はあるわけではないですか。これは正しいもの、どの範囲であるかというのが選び切れない。でも、子どもたち、分度器の学習では何度もやっています。

これはよくよく見ると、小数の引き算をするという、 6.79 引く 0.8 なのです。これは100分の1の位に9があるから、小数点で位がうまく合わせられないということは、多分この7とか9って、どういう意味でそこに数字が載っているか。これは10分の1の位で、これは100分の1の位ですよという基本的な事項がしっかり押さえられていないと、平気で縦式の引き算みたいに 679 引く 8 という形で計算をしてしまうということなのです。でも、分析すると、これだけよく見えてくるから、おもしろいといえばおもしろいのですけれども、ただ、これはおもしろいでは済まされないから。

次に行きましょうか。次の小学校算数Bも、別に良い悪いは言わないのですけれども、2問、3問、4問あたりが多く出ているところなのです。だから、その辺の子たちがしっかりやってくるとよいのですが。領域別の正答率では「量と測定」が全国と同じぐらいだったとはなっていますけれども、例えば三角定規を使って平行四辺形を描く方法について、平行四辺形のどの特徴をもとにしているのかを選ぶ。だから、平行四辺形自体は、下に問題があるのですけれども、描き方もわかっているけれども、どの性質があるかという基本的な自分たちの捉えているものがうまく活用できないなと思っています。子どもたちは、各学校では話し合い活動とか、さまざまなことに取り組んで学習を進めているところなのですけれども、もう少ししっかり子どもたちの力として残すためには、1つ1つの部分が本当に充実して、簡単に、表面上わかったではなくて、本当に時間をかけてじっくり取り組ませて、一人残らず理解するというか、本当の意味で理解することが必要なのかなという感じです。言葉で向かい合っている辺が平行とか、長さが同じなのだけれども、そういうものを自分で確かめながら、本当にそうなのかなと、繰り返し、繰り返しやることが大事なのかなと思っています。

続いて理科です。理科はほんの少しだけれども、全国を上回った感じです。でも、これも難しいのです。よいところなのですけれども、メダカの雄と雌がわからない。この下の問題なのです。背びれと尻びれなのです。長さが少し違うのは。でも、子どもたちは尾びれという印象がすごく強くて。だから、子どもたちは多分尻びれと尾びれではないかなとか何かとったりするところなのです。その辺のことなのです。でも、結構

やっているのですけれども私は思っているのです。

ただ、水が水蒸気になって空気中に出ていく現象の名称ですとか、顕微鏡で焦点を合わせる時に行う操作を選ぶとか、絵を見て器具の名称を書く。(メスシリンダー)とか、実験観察についてはかなり先生たちがやられているのかなとは感じています。あと、東を向いたときの90度右側の方位を選ぶとか。振り子の時計について、時計が遅れないためのおもりの位置の調整方法を選ぶのほうが子どもたちにもう少ししっかり理解してほしいかと思っています。昔の時計だとよくわかるのですよ。ずらすとき、この位置でくるくるとずらすではないですか。今の時計はデジタルで出てくるものですから。

○海野委員 見たことがないのかもしれませんがね。

○伊藤教育長 そうですね。そういうことなのです。それが実際の中でどこまで理解できているかなど。だから、問題自体がかなり生活にもつながるので、一番下の「活用する力を高める」ためにですけれども、身につけた知識・技能を、自然現象や日常生活に当てはめて考えられるように指導することが大事な。先生たちが題材を持ってくるときに、もちろん教科書の題材を使うのだけれども、生活の中でこうやって活用できているのですよとか、または生活の中の疑問が理科の授業、単元、中身に導くような工夫がなされてくると、また違ってくるのかなと思ったりしています。衝撃はメダカですけれども、多分先生方は来年はメダカを必死になって教えると思うのです。

次は中学校です。中学校は1.5ということで、昨年が1.4のポイントアップですから同じぐらいです。ただ、中学校も、昨年も言ったのですけれども、要するに「余った」という漢字が……。もちろんかなりよいのですよ。それから、昨年は擬態語ではなくて擬人法を選ばなかったのです。今年はこの擬態語を選ばなかったということなのです。「余った」ももちろん小学校で習う漢字ですので、中学になって習うような難しい漢字ではないのですよ。ここには「風の又三郎」の一部が載っていて、この中でどれを選びますかというものです。

では、Bに行きましょうか、国語Bです。これはわかりやすいのですけれども、小学校との差、Aに行って、また棒グラフを見てもらえますか。中学校は31問、32問が多いのですよ。それで、小学校のときに多かった26問、27問、28問の手前の部分が低い。だから、少し上のほうにずれている。

次のページを見てください。次の国語Bも同じように7問、8問、9問の部分が多いのですよ。もちろんゼロ問、1問は少ないし。割り振ると6問、7問の部分とか、6の部分

が少なくなる。ただ、先ほども小学校で言ったようにぐっと上に上がっている感じです。これは2.1ですから、昨年が0.8ポイントプラスですから、かなり力を伸ばしているかなと感じています。これでいくと、プラスでいろいろあるのですけれども、子どもたち、書く力ということであれば、小学校と同じで120字以内で書くとか、そういう条件をつけたものは、小学校と同じように鍛えなければいけないかなと思っているところでございます。

あとは、ここにあるように話し合い活動とか、大分進んできましたので、ディスカッションとか、ディベートとか、そういうものを授業の中に取り入れられるようになると、さらにまた力がついてくるかなと思っています。

続いて、数学Aでございます。これもグラフを見ると、27問から30問。でも、32問からほとんど全国と同じぐらいよいわけではないですか。ここが多いのですよ。そのかわり、14問ぐらいの部分がかなり低いので、特徴的なでっこみひっこみはあったりしますけれども、ずっと全体として前にずれているということ。これについては昨年が1.3で、今年も1.8ということで、子どもたちはかなり身につけているかなということですよ。

ただ、少し領域別の正答率があって、昨年も指導主事から第3学期にやりますとあったのですけれども、これはどうも同じみたいで、バランスよく、全部がきちんと授業の中でおさまってやると、もう少し定着率は高くなるかなという感じでございます。

続いて、数学Bでございます。これは3.4ですから、全国と比べてもかなり上回っています。これはもう先ほどのグラフでいうと如実にあらわれています。ゼロ問から6問が低くて、7問、8問からこの部分までは全部全国より人が多い。15問の最後の部分が少ないのですけれども、本当にできるというか、かなり正答率が高い子が上にいるということです。だから、数と式がプラス5.7ですから、全国レベルで見ても本当に上のほうの力を持っているかな、このテストの中ではという結果が出ているところでございます。

さらにこれを高めるとなると、小学校、中学校はある程度一斉的な授業が多いので、できれば自分の考えを話したり、説明したり、または友達と話し合うという活動も今後取り入れてくれば、さらに力が伸びてくるかなという考え方でございます。

中学校理科でございます。全国的に1.8上回っています。でっこみひっこみはありますけれども、グラフがわかりやすいのです、こちらにあるという形。中学校は真ん中辺の子たちが少し多い感じ。領域によって少し差はありますけれども、大体全てプラスの状態であったということです。

これも中学校は理科室をほとんど授業で使っているということで、実験観察、子どもた

ちの質問紙からも見てもすごく多くやっています。ただ、それを説明したり、自分の考えを考察して答えたりするという、そこまでの深まりはないのが見てとれます。これからの化学の時代では、身についた知識は変容しますので、これからの子どもたちは問題解決したもので、考察したものを自分で理由をつけて説明できる力が身につくといけません。それらを頭に入れて覚えるのではなくて、どのように問題解決することが必要だったか。そのための理由とか何かを自分で説明できる力がつくと、受験だけではなくて、これからの社会の中では身につくかなというふうに考えているところです。これらが教科についてです。

続いて、生活習慣、学習習慣という形でこのように載っています。小学校が赤で、全国の小学校が青で、市の中学校が緑で、全国の中学校が黄色で全て表示されています。生活習慣でも、小学生は良好で、中学生はやや課題があるということで、やはり携帯電話やスマートフォンを持っている割合の部分ですよね。ですので、真ん中のえび〜にゃの下あたりの所有率というか、保有率というか、これが小学校でも、中学校でも本当に高い。特に中学校は全国78.6に対して90.2ですので、絶対海老名の子は持っていなければいけないということはないと思うのですけれども、この辺は非常に高い数値ですね。各自治体ではPTAか何かでやったり、また、市教育委員会が方針を打ち出したりしているところがあるので、どのような形がよいかと思っています。でも、今は各学校で保護者にも働きかけるし、完全に規制という形ではしていませんよ。やはり持たせないとか、要するに使うには時間や何かを守ってくださいとしています。逆に言うと、持っているか、持っていないかで決まるのではなくて、持っていて、なおかつ上手に使っているほうが成績が高いということはもう実証済みです。そういう意味でいったときにどのような形かなということで、これは多分去年も話し合ったと思うのですけれども、課題が大きいかなと思います。

学習習慣のほうは、中学生が——これは家庭でのですから、塾も含まれてはいるのですけれども、このような形で進んでいます。ただ、とにかく復習ができない、あと計画的にできていないというのが1つの課題かなと思っています。塾での学習で予習等はかなり進んでいるのだけれども、毎日毎日の復習がしっかりできると、予習より復習のほうが地味な作業なので、その辺がしっかりできると変わってくるのかなということがあります。小学校のころは家庭学習の計画、学校全体として進めているところはあるのですけれども、さらにそれを家庭との協力の中で進める必要があるかなと思っています。

次のページをお開きください。規範意識・自尊感情などという子どもたちの心の問題に近い部分です。これは昨年、小学校がかなり高かったのですけれども、今年は小学校もそれほどでもないと感じています。ただ「自分にはよいところがあると思う」とか、「将来の夢や希望を持っている」が全国と比べるとまだ低いというか、小学校の「自分にはよいところがあると思う」は高いのですけれども、これはどんな手だてでとか、どんな形でということは非常に難しいのです。根底的には毎日毎日の子どもたちの生活が充実しているかどうかはかなり大きな部位を占められていると思います。その辺はやはりひとつ具体的な方向でどんな形で進めていくか。夢は持てと言って持たせるものではないので、また、自分に自信を持ちなさいと言って持たせるものではないので、生活の中で自分で自信を持てたりするので、その辺は必要かなと思っています。

学校・学級生活です。これは、中学校がかなりよくなったというか、昨年、小学校は全国……。鷲野教育指導課長、昨年、小学校は全国同じぐらいだったかな、上でしたよね、「学校に行くのは楽しいと思う」というところ。

○教育指導課長 特定の学校がすごく高かったような気がします。多分同等か、少し下だったような記憶があります。

○伊藤教育長 でも、中学生が「学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがある」はすごく高いではないですか。「学級みんなで話し合ってきたりなどを決めている」というのも高いのですよ。だから、そういう意味では、かなりよい社会性か何かは身につけてきているなど感じるところでございます。

次に行きます。次は家庭・地域です。家の人はいっぱい見に来てくださっている。一番上の右側ですけれども、本当に来てくださっている。ただ、子どもたちが「地域や社会の出来事に関心がある」とかあるのですけれども、「今住んでいる地域の行事に参加している」とか、「新聞を読んでいない」というのが少し気になりますね。この表は高いほうがいけないのです。今、家庭とか何かで新聞を読んでいないのですから。

○海野委員 新聞をとっていないかもしれないですね。

○伊藤教育長 そうですね。学校で借りようかな。それか、先生が新聞を紹介したりするとか。今はいろいろな社会問題が起こって、例えば昨日、中韓の会議があったでしょう。あれは多分、若者に聞いたときにどれだけ認識しているか、そこにどんな問題が潜んでいるかということになったら、本当に政治離れどころか、子どもたちがどう認識しているかと考えたときに、例えば今の大学生の年代とか、また10代の後半の子たちはいろいろなど

ころで、テレビはおもしろおかしくやるのでしょうけれども、インタビューされると、かなり要領を得ないことを言っているでしょう。このままでいったら、多分そういう子どもたちを我々はつくっているという気がしないでもないところがあるのです。

「テレビとかインターネットのニュースを見る」は、小学生は上だけれども、テレビを見ているのだと思うのですよ、ある意味で。ニュースとか何か。ただ、そういう意味だと、地域や社会の出来事に関心があるということ自体が今の海老名では問題ですね。先ほどの全体の表の中でも低かったですよね。この辺はひとつ問題なのかなと今感じているところでございます。

反対側、言語活動についてということでは、学習とのかかわり、言語活動で「友達の前で自分の意見や考えを発表することが得意」、あとは文章に書いたりということで、ここは先ほどあったのですけれども、文章に書いたりするのを難しいと思わない、小学校は400字詰め原稿二、三枚の感想文を難しいと思わないのですから、書くことには余り抵抗感はないかな。でも、「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりすることができている」になるとこんな感じですよ。

次のページに行きます。続いて学習についての関心・意欲・態度ですけれども、「読書が好き」「国語の勉強が好き」、赤と水色ですので、これは小学校です。図書館とか何かを利用しますかというのと、低いのですよ。だから、この辺は我々がどういう環境整備をするかというのが出てくるのかなと思います。

中学校のほうは「数学の授業がよくわかる」というと、先ほどの結果でいうと、やはりよくわかっているのですよね。それから、先ほどの理科です。「理科の授業では週1回以上観察や実験を行った」が、これほど多いのです。でも、中学校の授業も、ほとんど理科室でしかやっていない。だから、そういうことなのかなと思うのですよ。

教科に関する調査との関係（小学校）、保護者に生活習慣と学習成果が……。だから、毎日食べている子のほうが成績が良いし、生活習慣も同じ時間に寝たり、起きたりする子のほうが成績がよいなということはそこにあらわれていますね。もちろん携帯電話とか、ゲームとか、そういうのもきちんと1時間より少ない子のほうがこんなに高いのだよ、4時間以上はこんなに低いのだよというデータでございます。

次も同じように携帯、スマホの使い方、中学校ですけれども、これはもう生活習慣も全て同じような形で出ている。これは海老名がどうだということではなくて、全体としてこのような結果が出ていますということでもあります。

去年と同じようにご家庭で協力していただきたいことということは、テレビ、ゲームとか、そういう時間とルールを決める、基本的な生活習慣、家庭学習で、ここは毎日復習をやってほしいということです。あと授業参観や行事に来てください、地域との関係について親子で進んで参加しましょうということが書いてあるところでございます。

それを受けて28年度の、イチゴの絵があって、その次のページからが施策でございます。昨年度は4点ほど学力についての施策がありましたけれども、今年度は新しいものという形ではないのですけれども、1点が少人数学級・少人数指導のための教員を配置しますで、そこに書いてあるように2184万5000円の費用を使う、予算として計上する。全て市費の非常勤教員を配置します。

それから、補助指導員の配置についてです。これも全校1名で、約3000万円使っております。

教員の研修・研究を推進しますということで、先生方の研修を行っています。

コンピュータ利用教育を推進しますということで、同じようにICTの推進を行います。

次のページに行くと、これは費用はないのですけれども、今年から「授業改善の手引き」で、指導主事訪問で学校に伺って、授業をよくしていく。

学校支援という形で「学校応援団」による学校支援が始まりました。これは地域とのかかわりとか何かという意味では、地域の人たちが行っていただいていますので、そこに載せてあります。これは4158万円ほど使っています。

学習支援ボランティアを充実しますということで、現在登録者数117名で、その方が「まなびっ子」とか、ふだんの授業の中でも入っていただいています。

小中一貫教育を試行していきますということで有馬中で実施して、次年度、またどこか1校加えたいと思います。これが市の全体のほうでございます。

あとは各学校のものがずっと出ています。学校のほうはさきの結果を受けて、国語の調査、算数の調査、理科の調査ということでやって、次に児童質問紙から学校の状況を見て、最後、ご家庭で取り組んでいただきたいということで、その学校の結果をグラフに出して、この辺をお願いしますということです。

最後の資料は文科省の資料ですので、先ほど出たクロス集計であったような学習・生活習慣と学力との関係はこういうのですよということで、保護者の方に読んでもらうような資料になっています。学校ごとということをお願いをしてやっているのですけれども、保護

者の方、地域の方が読んで、すぐにわかりやすいかどうか、非常に難しいところがあります。やはり教育用語とか何かがあって、それを説明するとなると、本当に意思を持って読み込んでいただかないと理解できないかなというのがあります。

今後の具体的な取り組みというのですけれども、直接的なことではないので、例えば毎日文章を伴った漢字練習を10問ずつ宿題を出しますとか何かであればわかりやすいのだけれども、そういう形にはならないのです。

ただ、昨年から引き続いて学校は、2年間もやると、自分の学校の特徴が大分見えてきたみたいです。子どもたちの資質もあるけれども、指導の反映ですから、子どもは伸びますから、そういう意味で学校はどういう指導をしなければいけないかということが大分見えてきたなと思います。でも、数年前までは全然それが学校の中で意思統一できないまま授業が展開されて、消化されていたという面があります。これによって大分意思統一が図られる、この辺を注意してみんなで授業を進めましょうということは出てきたかなと思っているところでございます。

これについては全家庭にお配りしていこうかなと思っているところでございます。以上、海老名小から今泉中学校までの19校分が載っております。

それでは、一応説明はしましたので、皆さんのご意見をいただきたいなと思います。よろしくお願ひします。感想、意見等、お願ひします。各学校でここの表記が違うというのは少し難しいのですけれども、全体のことで感想、意見等をいただければと思うのですけれども、どんなことでも結構ですよ。

○平井委員 市の集計と学習状況調査のまとめというのは、昨年に続き、指導主事の先生方は本当に大変だったかなと思います。市としての方向がある程度見えて、ああ、海老名はこういうところに力を入れていかなければいけないのだなというところが、昨年に引き続き見えています。その中で、学習状況調査の中で生徒の質問紙のほうですね。それを表にしてくださっているのですが、昨年に比べると質問の数からして表にしてあるものが少ないかと思うのです。昨年9項目あったものが5項目になっていたりとかというのはあるのですが、それがどうして減っているのかというところを少し尋ねたいなと思います。

○伊藤教育長 保護者等に説明するのに、多過ぎて読み取りにくいということがあって、この状況はこうです、この辺の改善が必要だと文章で最初に大きめに出して、それを裏づけるような資料が下にあるような形にしたということでございます。たくさんあってよいときもあるし、たくさんあることによってわかりにくくなるのかなということで、本当

に単純に勉強がわかりやすい形にしようというのが1つの意図でございます。

○海野委員 その点について同じことなのですから、私は反対にグラフ表示が少なくなつて、文章で表記されますよね。それが反対に、家庭にとっては、非常にわかりやすいことではないかなという感想を持ちましたので、今回のほうがわかりやすいかなと思いました。今の件に関してはそういう感想を持ちました。

○平井委員 私、そこは評価したいと思うのですが、今回載せた部分と削った部分とをどのように判断されたのかなというところをお尋ねしたいなと思ったのです。

○伊藤教育長 それは担当の指導主事が判断します。

○平井委員 ここは載せたけれどもという、細かく昨年のもつと照らし合わせて、例えば規範意識なのですが、今年は友達との約束を守るというのが多分消えていると思うのです。そういう中で、載せたものと載せていないものとをどのように判断されたのかなというところをお尋ねしたいなと思います。

○伊藤教育長 多分それは学校の決まりを守るということで代表したのかなと私は推察しますけれども。

○平井委員 昨年はたくさん載っているのだから、読み込んでいくのは少し大変かなと思ったのですが、例えば人の役に立つ人間になりたいとか、物事を最後までやり遂げてうれしかったことがあるとか、友達との約束を守るという3項目が抜けていたりするので、そういうところも含めて、紙面上のこともあるのでしょうかけれども、そのあたりは見させていただいて気になったところではあります。

○伊藤教育長 わかりました。また次年度に向けて検討していきたいと思つています。

○海野委員 私も今回2年目の公表ということで、指導主事も作成に当たっては大変ご苦労なさつたことと思つています。でも、昨年よりも内容的には一歩踏み込んだ指導の内容が書き添えられているのではないかと思つられます。でも、学校ごとの公表の結果についてはまいち、学校によってはもう少し内容的に聞かれていったほうがよいのではないかという学校も見受けられました。でも、成績が、学力テストが全てではないのですから、この結果によって、今後、それぞれの学校の指導の仕方や学び方を検討していただけるよい材料になっていただければなと思つています。でも、生活指導の面での、今、平井委員がおっしゃつた規範意識とか学校生活でのグラフの内容のことは、ご家庭のほうにわかりやすい表示に今回していただけたのは、家庭でももう少し見直しがされるのではないかということを感じました。

○伊藤教育長 学校のものは、僕も変な意味で学校長の責任でよいかなど時々思ったりもして見るときちゃんと分析されるわけですよ。だから、本当に気持ちを込めて分析しているなと思います。でも、学校ごとにここまで言うということを学校全体の中で、学校独自に自分たちの考えで公表できるようになれば、それはそれで、その方向のほうは僕はよいかなど少し思ったりもしているのですよ。一斉に全部ではなくて、各学校が本当に自分たちで学習状況調査をやって、うちの学校の問題はここだと示すようになればよいと思っています。だから、この様式も自分たちでやっていけるぐらいの力がつくと、すごく変わってくるのかな。今まだそこまでは行っていないかな。1つの決められたことの中で展開しているだけだなというような気がしますけれども、それはまた、次年度等で改善していくのかなと思っています。

○海野委員 期待しております。

○岡部委員 学校ごとのほうは確かにいろいろあるのですけれども、市全体の結果で、昨年と比較して特徴的にこの部分はよくなった、悪くなったとか、そのような特徴的なことがあれば教えてほしいなと思いました。

昨年から市民にも公表しているわけですが、どんな反応があったのかなという質問です。

中身についてというより、少し細かい話で大変恐縮なのですが、言葉の定義で誤答というのが幾つかありますね。誤答の定義というのは国か何かで決まっているのですか。「(書いたが誤答だった)」と、「誤答」の説明をしているのに「誤答だった」というのは変な気がします。書いたけれども、間違っていたという意味ですよ。「誤答」の説明に「誤答」という言葉は使わないほうがよいのではないのかなと思ったのですが、個人的な感覚かもしれない。

○伊藤教育長 「誤答(書いたが誤答だった)」というのは、「誤答」という言葉を説明するのに「(書いたが誤答だった)」ではなくて、そういうことね。簡単に言えば書いたが間違いだったということです。

○岡部委員 そういうことですよ。感想としてはそう思いました。

○伊藤教育長 無回答は何も書かなかったでわかるのだけれども、誤答は別に誤答で十分伝わる。

○岡部委員 いや、書いたのでしょう。書いたけれども、間違いだったのでしょう。それを誤答というのですよね。

○伊藤教育長　そうです。でも、誤答自体は、書いたら誤答だから、下の「無回答」とあるのは「(何も書かなかった)」ということですので、この差の説明でいったら、無回答は何も書かなかったということです。

○岡部委員　よいと思います。私の感覚では、誤答を説明しているのだから、誤答は書いたが間違いだったでよいのではないかなと思ったのです。

○伊藤教育長　逆に言うと、誤答って、説明が要るかな。

○岡部委員　要るのではないですか。

○松樹委員　あったほうがよいと思います。

○岡部委員　いや、つまらない話で申しわけないです。

○伊藤教育長　「誤答」を説明する中に「誤答」という言葉が入っているのはどうかという事ですよね。

○岡部委員　そうです。

○伊藤教育長　では、1点目は全体にどうだったかということですが、傾向としてははっきりしたということです。やはり小学校は全体を下回っていて、なおかつ先ほども言ったようにグラフで見たとおり、定着度が完璧ではないというか、定着度が本当によく頑張っただけの子たちが多くいて、中学校は傾向としては変わらないのです。昨年も国語の同じところで小学校の漢字が書けなかったりするのが本当にはっきりしてきたので、改善の指導としてはもうこの辺が、こうせざるを得ないなというのが完全に目に見えてきたかなという感じがします。

　　具体でここがよくなったとか何かというのは、詳しく見ると、1項目1項目で、例えば領域ごとに昨年と比べるとあるのですけれども、それほどはっきりする感じではまだないですね。もう1年ぐらいやると、もっとはっきりするのでしょうかけれども、2年実施して傾向ははっきりしました。小学校の算数、基礎的なものがしっかり身につけていないこととか、それに対しては対応策が必要だとか、その辺はよくわかるようになったと思います。

○岡部委員　市民の反応はどうでしたか。

○伊藤教育長　市民の反応はないです。非常に簡単に言うと、我々が思っているほど高くない。だから、こちらの広報の仕方もあるのでしょうかけれども、市民からはない。だから、逆に言うと、市民がこれに対してコメントする気持ちはないかな、学習のほうは。でも、生活のほうはコメントしてほしいなという気持ちはすごくあるのです。我々のほうも

何らかの市民のどのように思いますかというコメントがとれるような形をとらないと、保護者にも昨年配るのは配ったけれども、配りっ放しだったというようなこともあったので、市教育委員会として各学校の市の結果を見ていかがでしたかという調査か何かは逆にする必要はあるのかなという気がします。そうでないと、少し配りっ放しというところがあるので。今、反応はどうでしたかということに対して、反応はそのままだと何もないのです。だから、その反応をするための方法をこちらが手だてとしてとらなければいけないなというのは今感じております。担当のほうはよろしいですか。私は、反応するための方策をとらなければいけないなと思います。

それから、分析した指導の担当のほうで、今年度、昨年度に比較して何かありましたらお願いします。どうですか。

○教育指導係長 それぞれ指導主事が教科に分かれて分析を行ったのですがけれども、それを共有していて、小中学校に共通の課題というのが見えてきて、今年は学校への説明会で、小学校のことを説明して、中学校のことを説明して、その後、もう1度小中それぞれの指導主事が出て、小中両方に共通する課題は、例えば算数、数学でいうと割合の部分ですとかというふうに、そういうところが見えてきたことも大きかったかなと思っています。本当に小学校、中学校の教員が力を合わせてそういうところを1年生から積み上げていくという大きな部分になるのかなと思いました。

○伊藤教育長 小中一貫教育という形の中でも、今、担当からあったのですがけれども、小学校の割合、もとになる数の計算で割合の部分が中学校でもできていなかったのですよ。そういうことも見えてきたので、今度の説明会では小中の共通課題についても学校に指導改善等で説明したいということでございます。

○松樹委員 確認事になるのですが、ここで本日審議をして、この後のタイムスケジュールを少し教えていただきたいのですが。いつ公表予定ですか。

○教育指導課長 11月17日に市のホームページで公表をする予定です。それと同時かどうか、学校と調整ですけれども、ほぼ同時期に学校には全保護者に配付をするという予定でおります。

○伊藤教育長 説明会は行いますか。

○教育指導課長 説明会は12月1日に学校のほうの説明会を行う予定でおります。

○松樹委員 先ほどから、少し出ているのですが、配る対象範囲は学校ごと、保護者ですか。

○教育指導課長 学校ごとは全部保護者です。

○松樹委員 こちらの冊子に関してはホームページに掲載するのですか。

○教育指導課長 冊子については、市のほうは冊子では配らずに、ホームページで載せます。また、学校のものも同時に、全学校のものも市のホームページに合わせて、11月17日を目途に公表する予定でございます。

○松樹委員 昨年と同じような構造で、先ほど少し教育長もおっしゃいました、例えば地域の行事に参加する回答が少ない。別に子どもたちが悪いわけではなかったり、その行事がなかったりとか、携われなかったりとか、事業だったり、イベントだったり、地域のもので多いような気がするのですね。例えば自治会というわけではないと思うのですが、今こういう傾向がありますという中で、青少年健全育成連絡協議会だったり、自治会だっなどの会合の中で、後ろのほうのデータで今はこういう状況ですという形の中で少し投げかけをしてみるだとか、少し石を投げられるところというのですか。そういうものを少しずつ、教育委員会としても投げられるところは投げてみるような施策があってもよいのかなという気がしました。それをやるか、やらないかということもあるのですが、その方たちが市のホームページを見て、ああ、今の子どもたちの傾向はこうなのだなと思うことは少ないかと思うので、そういうところも攻めてみるという言い方は変ですが、こうなのですよという形の中で、何とか子どもたちを巻き込んで、できるのであれば、データが出てもよいのかなという気がしましたので、その辺もやっていただけたらなと思います。

また、市の調査結果なのですが、大変読みやすいので、本当にご努力のたまものだなと思っております。ホームページでなくて、もっと多くの人に読んでもらいたいと思ひまして、例えば図書館もリニューアルしましたので、図書館にコーナーを設けてもらうとか、そんなのもよいのかなという気がするのですね。より多くの人に触れる機会の中で、もちろんお金の面も出るのだと思うのですが、全戸配布が一番よいと思うのですが、全部はまた無理な話ですので、図書館等を活用しながら、現状を知ってもらうのが一番手なのだと思います。

各学校の状況調査、先ほど海野委員からありましたけれども、学校によって差があるなという形で、すごく分析をされている学校と、そこまでしていない学校がある中で、それが学校の特色といえれば特色なのかもしれませんが、昨年よりは具体的になったかなと思うのです。学校側も手探りなところもある中で、私はもっと具体的でよいのかなという部分があります。今年2年目でどうかなと思うのは、今こうしていきます、今ああしていきます

すというのが多いのですが、これは、来年の新6年生のことを指すのかな。例えば漢字テストをやっていきますとなれば、3、4年生ぐらいで漢字が多くなりますが、3、4年生ぐらいから漢字の基礎をしっかりとやっていって、小学校であれば6年間の中でどう力を身につけさせていくというのがここでは余り読み取れないような気がするのですね。では、これは誰を対象に力をつけさせていくのかとか、もう少し具体的に、いつの段階から力を入れて自分たちの学校の足りないところを補っていくとか、今年はこれで、そういう部分がまた来年、ステップアップの中で報告という形が出てくればよいかなと思います。来年はもう3年目になりますので、学校独自の分析結果のようなフリーのページがあってもよいのかなという気がしますので、先生方は少し困ってしまうかもしれないのですが、何かそんなものも検討していただければと思います。

前の公表の議題のときにも、私、少しお話しさせていただきましたけれども、もちろんこれを公表する大前提として、もちろんこれは子どもたちがこれですという話ではなく、ある一部の結果だけですので、点数で上下をつけないという形の中で、教育委員会で、何か説明文のようなもの1枚をつけていただくなり、配っていただきたいなというのがあります。昨年もそうしていただいたと思うのですがお願いしたいなと思います。

○伊藤教育長 はじめにの部分に入っていたりするので、学校に配るものは文章をつけて配ります。あと、市全体で共有するという考え方で言うと、我々も結果だけではなくて、我々も団体とか何かを自分たちで管轄というか、所管していますので、そういう方々にもこれが生かされるような手だてはとっていきたいなと感じておりますので、その方向でやっていきたいと思います。

あと、学校のもは各学校でお願いしたいです。今年校長たちと協議する中では、市のほうは26年度の比較だけれども、学校はそれはよいですよと言ったので、3年目、4年目になると、これまでの比較の部分をコメントしなくてはいけないかなと思っています。こうやってきて、こうだったという。そうでないと、やりっ放しのサイクルになってしまいますので、これがぐるっと回れるようなサイクルにしていく必要が今度は出てくるかなと思っていますところでございます。

○松樹委員 これは公表ですので、例えば来年、再来年に向けて指導主事の方には大変な思いをさせてつくらせておいて、またこんなことを言うのも恐縮なのですが、例えば各学校によってももちろん優劣があるわけですし、当該の学校の先生たちも考えてはいるのでしようが、指導主事の方たち、もっとこういうアイデアをと投げってみるのはいかがでしょう

か。それは別に公表するとか、そういうことではなくて、学校と教育委員会のやりとりの中で、これはもう3年生ぐらいからこういう基礎計算をもっとやったほうがよいとか、そういう石をどんどん投げただけだと思います。大変な中、申しわけないですが。

○伊藤教育長 わかりました。

○平井委員 先ほどから出ているように、分析は学校差が随分あるかなと思います。教育長がおっしゃったように紙面で枠が決まっているだけに、その中に押し込めるのはなかなか難しいと思うのです。そういう点で私は、有鹿小学校がまとめているのがすごくよいかかなと思いました。何々をやりますとか、そういう形で結果をまず前面に出して、その理由とか、説明をきちんと書いていく。そういう形もひとつよいのではないかな。読んでいて、割と読みやすいかなというような感じがしています。

やはり一番は、学校側が内部の分析でなくて、保護者に知らせるという立場で果たして分析作業をしているかどうか。そのところは非常に弱いのではないかな。専門用語が多過ぎて、私が読んでも理解できないところがたくさんあるのですから、保護者がこれを読んで、細かくご理解いただくということはまず難しいだろうなと思いました。よっぽど具体的に示さない限り、小数の引き算ができないとか、そういうことを1つ1つ、一文でもよいから細かくやっていかない限り、保護者の理解はなかなか難しいのではないかなというふうに感じました。

あと1つは、今後の具体的な取り組みなのですが、このところは多分学校は非常に悩んでいるところではないかと思うのです。昨年だったら読書の習慣をつけようというのが、ある学校ではもう今年度消えているのですね。昨年12月に出したものが、もう来年はないという。その年度年度で学年が違う子どもたち、実態が違う子どもたちを分析していく中では、どうしてもそれは昨年はこうだったけれども、今年の子どもにはそれはもう関係ないよ、結果で出てきたもので。そうすると、今後の取り組みが違ってきてしまうのですね。その中で何校かは昨年と同じ目標でいこうという学校が二、三校、小学校でもありました。そういう中で今後は、先ほども出ていたように、具体的な取り組みを中3、小6だけで持っていくべきなのか、分析がその学年だけだからなかなか難しいのですが、そのあたりがもう本当に学校によって全く違ってきているので、果たしてこれで学校の学力につながるかなというところをすごく感じるのですね。年度年度によって切れてしまっている。分析は分析なのだけれども、それを具体的な取り組みとして、1年足らずでどんどんぶつ切りにしていったときに、果たして子どもたちの学力につながるのかなというような

ところは、昨年と今年を見させていただいて感じているところではあるのですね。

もう1つは、市が出したそれぞれの教科の分析と学校の分析をどのようにつなげていくか。市が主として、市の指導方針として、また入れていくとは思いますが、市の分析と学校の分析と、そういうものを今度どのように絡ませていくのか。そのあたりは今後研究していく必要があるのではないかなと思います。

○伊藤教育長 学校のほうで2年目で、ステージに乗ってくれることをまず昨年あたりはやって、ようやく乗ってきたので、先ほど私も言いましたけれども、今のはやりっ放しで、1年ごとですけれども、それが本当にスパイラルして、その反省のもとに次年度に反映させていく。

あとは、スパンで、例えば5年ぐらい見て、1年生の子を6年生にまで育てる中で、小学校としてこの子たちにこういう力をしっかり身につけさせようという、そこまでの長い計画は今持ち切れていない部分があるかな。教育計画の中で。その辺は本当に大きな、もともとの根本的な要因があるかなと少し感じています。

○海野委員 1つ聞いてもよろしいですか。今回の結果ではないのですけれども、6年生にしろ、中学3年生にしても、テストの結果が返ってきたときに、先生からの一言はあるのでしょうか。

○教育指導係主幹 昨年度、返したときには、一言ずつ声をかけながら返すようにしていました。

○海野委員 あなたはどういうことが苦手ですよという感じですか。

○教育指導係主幹 はい。あとは、学期ごとの歩みの中で返すことがあります。というのも、学習状況調査の場合、返すまでに少し時間がかかってしまっているので、忘れてしまうというところもございますので、内容の中身を読んで、トピックスのようなところを一言二言コメントして返すようには心がけました。

○伊藤教育長 生かすという意味では、学校では日々の教育活動に精いっぱいなところがあって、いきなり出されると、新しいものという感覚であるので。でも、データとして全国的に使われているものは、ほかにないので、データとしては、やはり貴重なのです。それをどう活用するかは、基本は子どもなので、その子が全国的にはどういう力がどこだということは、きちんと時間があれば解説して、紙一枚でも添えて、こうだよ、この辺を頑張ろうねと励ましの言葉でやれるような感じになると、全然違うかな。中3はそんな感じでもないのかもしれないけれども、小学校6年生にとっては、この後、中学校3年間の学

習が来ますので、それについてこうだねということがコメントできると本当にありがたいですね。その辺についてどのように返すのかというのは重要で、このように集計的にもやるけれど、本来の基本は個人票なので、1人1人に返された個人票が全てであるので、その辺はまた、市教育委員会としても学校と協議して、できるだけよい形で子どもたちが身につくような返し方をするようにしていきたいと思います。

○海野委員　お願いします。

○松樹委員　漢字の「浴（びる）」が書けないという場合等、スマートフォンを持っているとか、私は結構リンクをしているのではないかと思います。例えばメールを打つのも、私たちの時代からもそうだと思うのですが、読めるけれども、書けない漢字が多い。それは変換で打ち込んで、読めるのですけれども、ぱっと言われても、ぱっと出てこないという、なかなかそういうのが多いのではないかなという気がするのですね。

先ほど教育長は新聞の話をされましたけれども、新聞を学校につるしても、子どもたちはなかなか読まないと思うのです。ニュースもほとんどネットで見ていると思いますし。ただ、ネットのニュースというのはトピックスで書いてあって、社説みたいに書いてあるわけではありません。ただ、ニュースが流れていく。自分の中でそれをとめて、これはどういう問題なのだろうかと考えることなく、ただ流れていくという話ですので、一番はもちろん新聞を読んで、ああ、こういう意見もあるのだとか、いろいろな物の見方だったり学習してもらうのが一番よいのかなという気がします。いろいろな中で、先ほどの行事に出ないだとか、私はリンクをしているのだと思うのです。つながりの中でといっても子どもですので、その辺をもう少し分析しながら、例えば先ほど社会教育計画という事業がありましたけれども、その中にそういう方面も頭の片隅に入れながら事業展開していくということもやはり必要になってくるのではないかなと思いました。

○伊藤教育長　切り取って、それだけではないですものね。子どもたちを取り巻く環境はみんなつながっているから、そういう中での問題です。だから、社会の状況によって先ほども出たけれども、新聞をとっていない家庭も大分増えてきたのではないかなと思うのです。

○松樹委員　私は3紙とっていますけれども、普通のご家庭ですと、朝、会社に出るとき、スマートフォンを持っていれば、そちらでニュースを見たほうが全然早いですし、情報としてはとれますので、新聞をとるとまではなかなかいかないのかなという気がしますね。

○伊藤教育長 朝起きたら、大人の方が新聞を読んでいるというのが家庭の姿だったけれども、そんなのは今ではあり得ないですね。でも、それをどう打開するかというのが大きいですね。

○岡部委員 子どもが読まないというのは、大人が読んでいないということですね。新聞をとっていない人も今は多いですから。

○伊藤教育長 それはほかのことも全部、家庭生活も含めて、また、地域との関係も含めて全部つながっているところがあるでしょうね。でも、我々が懐古すれば済むことではないので、子どもたちは現実を生きていますので、その子どもたちにとってどの方策が一番よいかというのは難しいですね。

○松樹委員 先ほどの社会教育でも、例えば人と人のつながりだったりとか、勉強にしても、私は結構アナログなのだと思うのです。いろいろスマホなどのデジタルが出てきた中で、でも、立ち返ってみると人間同士ですので、やはり勉強とかもアナログなのではないかなと思うのです。そういう環境をつくっているのは我々大人ですし、スマートフォンを買い与えているのも親ですし、開発しているのも我々大人です。子どもが悪いわけではありませんので、どうやったら子どもが大人になったときに幸せに生きていくかという中で今後のことを考えていけたらなど、少し大きな話ですけれども、思いました。

○伊藤教育長 今の松樹委員の話について、委員さん方はどうですか。先ほど一番最初にスマートフォン等をもう自治体によっては規制している。それを守る、守らないは別にして、例えば海老名市教育委員会として、小学生にはスマートフォンは持たせないでくださいとかという方針を出して、毎日使うのは1時間以内にする事の決まりとかを出したりする。そういう自治体も実際あるよね。だから、現状を踏まえて総合なのですからけれども、そういう手だてを打たないのかという方々もいらっしゃると思いますが、海野委員はそれについてはどうですか。

○海野委員 やはり中学生をお持ちのお母さん方から、うちの子は塾に行かせているから、渡さないわけには絶対いかないのですよという答えが返ってきたのですね。だから、うちの孫も持っているのですけれども、時間を規制しているというか、お茶の間にいるときしか使ってはいけないとか、そのようにしているようなのです。親の目の前でしか使ってはいけない、自分の部屋に入ったら、お台所に置いておきなさい、自分の部屋には持って行ってはいけないというふうにしているらしいのです。だから、そのように学校ごとというか、そういう規定を、お約束事をつくってもらったほうがよいと思います。今の時

代、持たざるを得ないのだと思うのです。遠くの塾へ行ったり、親は心配なのです。ですから、そういう約束事、規約をつくってもらえたらよいのではないかと思います。

○伊藤教育長 ただ、ある意味では、家庭でやることではないかとも思うし、その辺をどのように判断するか。だから、教育委員会で決めてください。という方もいるのですよ。

○海野委員 それは無理ですね。

○松樹委員 例えば携帯電話は大変便利なものですし、遠くにいる人とお話ができたり、メールのやりとりができたり、使い方の問題なのだと思うのです。その昔、携帯のない時代は、皆さん、手紙を書いていたので、最近、私も手書きの手紙を書いたことがありますかと聞かれたことがあるのですね。いや、最近はないですと答えました。皆さんもそうだし、もらったこともないです。私、手紙とかは昔から余りもらったことがないですし、特に女性からは全くもらったことがないです。済みません、それはよいのですが、そういうアナログチックなことだったりというのが必要だったり、その辺は学校で手紙を書いてみようよとか、何か補えるような方法があるといいですね。頭ごなしにスマートフォンはだめだとか、よいとかという話ではなくて、使えばすごく便利なものですので、では、何が大切で、何が足りなくて、今どうしていきたいのかという中で、手紙は一例ですけれども、では、みんなで手紙を書いてみようねとか、クラスの中なのだけれども、夏休み、必ずみんなに手紙を書いてみようよとか、絵手紙だったりとか、そういうつながりだったり、書くためには文章を考えるわけですので、漢字も書くわけですので、いろいろな中で補える施策とかを打ち出していくのが私は現実的な話なのだと思うのです。何時間がよいとか、何時からだめだとやっている自治体もありますので、いろいろなお考えがあるのだと思うのですが、私はよいのではないかなと結構思っています。

○伊藤教育長 ささまざまな点については、またこれをもとに、これが1つの問題点となつて、教育委員会でも議論をしていきたいです。

他にございませんか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○伊藤教育長 ご質問等もないようですので、議案第22号を採決いたします。

この件について、原案のとおり可決することにご異議ございませんか。

○各委員 異議なし。

○伊藤教育長 それでは、ご異議なしと認めます。よって、日程第2、議案第22号を原案のとおり可決いたしました。

○伊藤教育長 それでは、以上をもちまして本日の日程は全て終了いたしましたので、教育委員会11月臨時会を閉会いたします。